



北海道神経難病研究センター 2024年度活動報告

第13号

(2024年4月～2025年3月)

北海道神経難病研究センター

目 次

1. 2024年度活動報告について
2. 北海道神経難病研究センターの概要
3. 2024年度活動報告
 - (1) 神経難病臨床研究部門
 - (2) 神経難病リハビリテーション部門
 - (3) 神経難病看護・ケア部門
 - (4) 神経難病医療相談・福祉支援部門
4. 北海道神経難病研究センター主催講演会
北海道神経難病ケースカンファレンス
神経難病セラピストの座談会

1 2024年度活動報告について

北海道神経難病研究センターは、平成23年7月に神経難病に関する病態解明および学術的治療研究、看護をはじめとしたコメディカルによる多角的臨床研究、神経難病患者を中心とした医療環境に対する調査・研究を行い、これら神経難病に対する総合的かつ包括的な研究を推進し、北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に設立した。

研究センター全体としての活動は、平成23年度活動報告、平成24年度活動報告、平成25年度活動報告、平成26年度活動報告、平成27年度活動報告、平成28年度活動報告、平成29年度活動報告、平成30年度活動報告、平成31年度は2019年度活動報告として発刊し、2020年度活動報告、2021年度活動報告、2022年度活動報告、2023年度活動報告に引き続き、今回、2024年4月～2025年3月までの活動を2024年度活動報告としてまとめました。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人が集まる会議・会合は控えられ、講演会がオンライン講演会となり、対面での臨床研究が制限されましたが、2022年度後半からは対面講演会とオンライン講演会を同時開催するハイブリッド講演会や全国講演会が開催され、徐々に新型コロナウイルス感染症拡大前の状態になっております。

北海道神経難病研究センターでは、2024年4月からAPRIN eラーニングを導入し、臨床研究で人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を理解して臨床研究を進めるシステムを導入致しました。2025年1月に北海道大学大学院医学研究院研究グループと北海道脳神経内科病院との共同研究が北海道大学プレスリリース研究発表として発表され、2025年3月に公益財団法人日本フィランソロビック財団第2回パーキンソン病QOL基金に申請した「北海道のパーキンソン病リハビリテーションに関する地域特性調査」への助成が決定され、神経難病に関する研究・調査を一步一步ですが進めております。

これまでの多方面の方々からご支援賜りましたことを深謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻下さりますよう、お願い致します。

2025年4月

専務理事・センター長 森若文雄

代表理事 濱田晋輔

2 北海道神経難病研究センター 概況

- (1) 設置年度：平成 23 年 7 月 7 日
- (2) 組織：北海道神経難病研究センター 最高顧問：田代邦雄
 同 センター長・専務理事：森若文雄
 同 代表理事：濱田晋輔
- 研究部門（主任研究者）：
- 1) 神経難病臨床研究部門（武井麻子）
 - 2) 神経難病リハビリテーション部門（中城雄一、成田 雅）
 - 3) 神経難病看護・ケア部門（佐藤美和、大久保暁子、三谷理子、鈴木りか、藤田恵巳子）
 - 4) 神経難病関連（検査、薬剤、栄養）部門（白濱英暁、瀧元裕二、工藤麗子）
 - 5) 神経難病在宅医療・地域医療部門（本間早苗）
 - 6) 神経難病医療相談・福祉支援部門（下川満智子）
- (3) 事業
- 1) 神経難病医療に関する臨床医学的調査・研究
 - 2) 神経難病に関するリハビリテーション研究
 - 3) 神経難病に関する看護調査・研究
 - 4) 神経難病医療とその関連諸部門の学際的調査・研究
 - 5) 神経難病に関する地域・在宅医療調査、研究
 - 6) 神経難病医療に関する患者を中心とした環境調査・研究
 - 7) 第1号から第6号まで掲げる調査・研究に対する研究助成
 - 8) 北海道における神経難病医療に関する諸交流の推進
 - 9) 神経難病医療に関する研究者の育成
 - 10) 神経難病医療に関する諸成果の刊行
 - 11) 神経難病医療に関する研修会・講演会・シンポジウム等の開催
 - 12) 神経難病医療調査・研究に関する文献等の収集及び閲覧
 - 13) 北海道における神経難病医療調査・研究の受託
 - 14) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 2024年度活動状況：

(1) 神経難病臨床研究部門

神経難病臨床研究部門は、医務部が各部と連携して活動している。【研究業績】、【社会活動】、【教育活動】、【北海道大学プレスリリース】にわけて報告する。

【研究業績】

<論文>

- 1 Harada Y, Iwabe T, Ota K, Hamada S, Moriwaka F. Effects of smile training on gait disturbance in Parkinson's disease patient with neuropsychiatric symptoms: A single case design, *Phys Ther Res*, 273:173-179, 2024
- 3 Eguchi K, Yaguchi H, Uwatoko H, Iida Y, Hamada S, Honma S, Takei A, Moriwaka F, Yabe I. Feasibility of differentiating gait in Parkinson's disease and spinocerebellar degeneration using a pose estimation algorithm in two-dimensional video *J Neurol Sci*. 2024 Sep15;464:123158.doi:10.1016/j.jns.2024.123158. Epub 2024 Jul 30.
- 4 Eguchi K, Yaguchi H, Uwatoko H, Iida Y, Hamada S, Honma S, Takei A, Moriwaka F, Yabe I. Gait Video-Based Prediction of Severity of Cerebellar Ataxia Using Deep Neural Networks *Mov Disord*. 2025 Jan 22. doi: 10.1002/mds.30113. Online ahead of print.
- 5 濱田晋輔：神経筋疾患における Advance Care Planning の取り組み ～パーキンソン病を通して考える～、*札幌医通信* 688:9-12,2024
- 6 Niino M, Isobe N, Araki M, Ohashi T, Okamoto T, Ogino M, Okuno T, Ochi H, Kawachi I, Shimizu Y, Takahashi K, Takeuchi H, Tahara M, Chihara N, Nakashima I, Fukaura H, Misu T, Miyazaki Y, Miyamoto K, Mori M, Kinoshita M, Takai Y, Fujii C, Watanabe M, Fujihara K. Clinical practice guidelines for multiple sclerosis, neuromyelitis optica spectrum disorder, and myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease 2023 in Japan. *Mult Scler Relat Disord*. 2024 Oct;90:105829. doi: 10.1016/j.msard.2024.105829. Epub 2024 Aug 17.
- 7 Kinoshita M, Yamamoto M, Machida R, Misawa M, Yabe S, Yoshida N, Kikuchi A, Fukaura H, Kaida, Ohno K: Painful muscle stiffness with markedly elevated serum creatine kinase (CK) levels after twenty weeks of gestation in four patients with myotonic dystrophy type 1 (DM1) and a patient with paramyotonia congenita (PMC), *Neuromuscul Dis*. 2025 Mar 28;22143602251329168. doi: 10.1177/22143602251329168. Online ahead of print.
8. Ota K, Mani H, Nochimura K, Nakashiro Y, Hamada S, Moriwaka F : Five functional domains associated with gait performance in Parkinson's disease and trunk flexion. *Front. Neurol.*, in press

<学会・講演会発表>

国際学会

<2025 年度>

3月21-23日（金-日）The 14th Asian and Oceanian Parkinson's Disease and Movement Disorders Congress
the 4th *Movement Disorders Clinical Practice* (MDCP) Conference
Session 1: Modern Phenomenology Using Clinical Skills and Ancillary/Digital Tools
Eguchi K: Modern phenomenology and digital tools in ataxia

国内学会・講演会

<2024 年度>

4月19日(金) CIDP WEB Seminar 2024

濱田晋輔：CIDP 臨床でできること ～リハビリテーションから環境整備まで～

4月19日（金）神経免疫疾患 診療連携セミナー 大宮市、埼玉県

深浦 彦彰；最新の MS 診療とは一さいたま市における医療連携～

4月24日（水）IL-6 Expert Conference web ハイブリッド開催 札幌、北海道

深浦 彦彰；司会

5月15日 北海道 Neurology Seminar 2024

廣谷 真：パーキンソン病への外来・在宅リハビリテーション

5月21日（火）脳神経内科かしわば病院 キックオフ記念講演会

菊地誠志：脳神経内科診療の診療 過去～現在～未来（仮）

5月29日～6月1日 第65回日本神経学会学術大会（東京国際フォーラム）

江口克紀：歩行動画と深層学習を利用した脊髄小脳変性症患者の SARA 点数の予測

6月15日（土）第29回北海道パーキンソン病研究会

江口克紀：ビデオとAIを利用したパーキンソン病の歩行分析

6月18日（火）NMOSD の根拠医療連携を考える会 ハイブリッド開催 釧路市、北海道

深浦 彦彰；視神経脊髄炎 NMOSD の診断と治療

6月19日（水）神経疾患のチーム医療を考える会 in 道東 web 配信 釧路市、北海道

深浦 彦彰；多発性硬化症～最新の治療戦略～

6月26日（水）認知症セミナー in 根室 web 配信 根室市、北海道

深浦 彦彰；これからの認知症診療ー抗アミロイドβプロトフィビリル抗体の臨床効果ー

7月2日（金）PD Expert Lecture

司会：濱田晋輔

大塚千久美：レボドパ治療戦略～オピカポンの使いどころ

7月5日（金） 神経難病アップデートセミナー web 配信 札幌市、北海道

濱田晋輔 Opening Remarks

廣谷 真；座長

深浦 彦彰；NMOSD の治療トレンドー新ガイドラインを踏まえてー

7月9日（火）寿都医師会講演会

濱田晋輔：パーキンソン病の診断・治療

7月12日（水）パーキンソン病リハビリテーションミーティング

7月16日（火）北海道頭痛セミナー2024

山田恵子：片頭痛の慢性化と危険因子評価の試み

7月19日（金）小野薬品工業株式会社社内研修会

江口克紀：AIを利用したパーキンソン病の歩行分析

8月3日（土）第49回難病患者・障害者と家族の全道集会（網走大会）

菊地誠志：北海道における難病医療のあゆみ ～神経難病への挑戦～

8月19日（月）SDM で NMOSD 治療を考える in 青森 ハイブリッド開催 青森市、青森県

深浦 彦彰；NMOSD の治療トレンドー新ガイドラインを踏まえてー

8月31日（土）神経科学と脳神経内科の未来に向けて from 東日本

9月20日（金）令和6年度良質な医師を育てる研修「神経・筋(神経難病)診療中級研修」、
北海道医療センター

菊池誠志：難病・神経難病、難病医療提供体制等についての総論

菊地誠志：閉会の辞

9月20日（金）NMOSD SDM セミナー ハイブリッド開催 都城市、宮崎県

深浦 彦彰；NMOSD の最新治療 ー新しい発想と価値観ー

9月3日（土）第114回日本神経学会北海道地方会（札幌医科大学大講堂ハイブリッド開催）

松島理明、足澤萌奈美、工藤彰彦、佐久嶋研、金谷泰宏、西本尚樹、澤田潤、松岡 健、上杉春雄、
南 尚哉、佐光一也、武井麻子、久原 真、玉越暁子、佐藤典宏、矢部一郎：北海道における多系統萎縮症レジストリ研究：HoRC-MSA 2014-2024

9月10日（火）サフィナミドユーザーズミーティング 2024(Web 配信)

濱田晋輔 Opening Remarks

9月12日（木）パーキンソン病地域医療連携セミナー2024(Web 開催)

廣谷 真：知っておくと役立つパーキンソン病の薬物治療のポイント

9月17日（火）神経内科領域における慢性便秘症を考える ZOOM LIVE SEMINAR

～ガイドラインに基づいた新たな便秘治療を実施するために～

濱田晋輔：総合司会

9月19日 North Japan-ADIRECTURE ~ Academic Research & Clinical pathology lecture~

江口克紀：AI とビデオを用いたパーキンソン病の歩行分析

9月24日（火）PD Expert Seminar in HOKKAIDO

江口克紀：AI とビデオを用いたパーキンソン病の歩行分析

10月2日（水）令和6年度 神経難病研究会 根室市、北海道 根室保健所主催研修会

深浦彦彰：パーキンソン病治療と支援のポイント

10月4日（金）第36回日本神経免疫学会学術集会 富山市、富山県

深浦彦彰；MS/NMOSD/MOGAD への非同期型オンライン相談システムを用いた診療サポート

10月10日（木）Neurology Dojo in 北海道

江口克紀：パーキンソン病の歩行分析 ～一神経内科医がAI 研究をしてみた経過～

10月11日（金）Neuroscience Web Seminar 多職種連携講演会

座長 森若文雄

溝口功一：難病患者の災害対策

10月30日（水）NMOSD Web Seminar 再発予防を見据えて ハイブリッド開催 大宮市、埼玉県

深浦彦彰；これからの NMOSD 治療 一新診療ガイドラインをもとに一

10月31日（金）北海道医療センター 神経筋難病の最新治療

戸田達史：神経筋難病の最新治療

閉会の辞：菊池誠志

11月2日（土）北海道訪問リハビリテーション実務者研修会

廣谷 真：神経難病診療で大切にしていること

11月18日（月）令和6年度江別保健所難病関係者学習会

廣谷 真：神経難病の疾病特性と治療について

11月28日（木）札幌神経免疫疾患アップデートセミナー

座長 濱田晋輔

宮崎雄生：NMOSD・MMS最近の話題

12月5日（木）難病連ヘルパー研修会

武井麻子：神経疾患を深く理解するシリーズ PART 2 脊髄小脳変性症 パーキンソン病関連疾患

12月6日 第52回日本頭痛学会総会（横浜）

山田恵子：頭痛外来に受診した片頭痛患者の頭痛日数と臨床的特徴・共存症についての検討

12月6日 第52回日本頭痛学会総会（横浜）

山田恵子：頭痛外来に受診した片頭痛患者の頭痛日数と臨床的特徴・共存症についての検討

12月8日（日）WEB FORUM 2024 MS キャビン主催

深浦彦彰；視神経脊髄炎の対処療法

- 12月15日（日）市民公開講座 多発性硬化症 in 埼玉 川越市、埼玉県 ーMSについて知ろうー
深浦 彦彰；多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクトラム障害 診療ガイドライン 2023 について
- 12月16日（月）Medii E コンサル Lecture web 配信
深浦 彦彰；実症例から学ぶ多発性硬化症の早期連携
- 12月18日（水）神経疾患セミナー ハイブリッド開催 釧路市、根室市、北海道
深浦 彦彰；多発性硬化症～これからの治療方向性～

<2025 年度>

- 1月31日（金）、スモンに関する調査研究班研究報告会（AP東京八重洲、東京）
濱田晋輔、森若文雄、石坂美波、中城雄一、萩原大悟：医療用 HAL 治療を実施した
スモン患者のリハビリテーション経過報告
- 2月4日（火）MS 診療カンファレンス Web 配信 根室市、北海道
深浦 彦彰；MS 患者の生活・価値観についてどう考え治療するか？
- 2月7日（金）北海道神経難病研究センター研修会
座長 濱田晋輔
演者 江口克紀：AI と動画を利用した歩行分析
座長 廣谷 真
演者 保前英希先生：十勝地区の神経疾患医療連携
- 2月14日（金）最新の診断基準と病状評価による MS 治療の革新 Web 配信
深浦彦彰；総合司会
- 2月17日（月）パーキンソン病患者の神経障害性疼痛を考える会
座長 濱田晋輔
- 3月24日（月）北網圏域難病対策地域協議会研修会
座長 森若文雄
黒柳弘美：ALS 患者サポートミーティング活動報告について
鈴木秀一郎：パーキンソン病診療を通して神経疾患や老年期における患者支援を考える
廣谷 真：多発性硬化症の紹介基準と最新の治療について
- 3月26日（水）ねむろ医心伝信ネットワーク会議 根室市、北海道
深浦彦彰 根室で守る みなさんの健康ー脳神経内科の視点からー

【社会活動】

＜検診・医療班派遣＞

1. 森若文雄：令和 6 年度オホーツク地区スモン検診、6 月 5 日
2. 深浦彦彰：令和 6 年度北方四島交流事業「洋上慰霊」、医療班 9 月 10 日～11 日
3. 濱田晋輔：令和 6 年度利尻礼文在宅難病患者訪問検診、稚内保健所、9 月 11 日～13 日

【教育関係】

＜講義＞

1. 武井麻子・本間早苗：札幌医療リハビリ専門学校夜間部講義
1)神経内科総論 2)脊髄小脳変性症 3)多系統萎縮症 4)高次脳機能障害 5)遺伝子性末梢神経障害
6)自己免疫性疾患（中枢性） 7)自己免疫性疾患（末梢神経） 8)筋疾患 9)絞扼性神経障害

【北海道大学プレスリリース】

2025 年 1 月 30 日北海道大学プレスリリース研究発表で「歩行動画から小脳性運動失調の重症度評価を行う AI の開発 ～遠隔診療や新薬開発臨床試験での有効性評価などへの応用に期待～（医学研究院 教授 矢部一郎）」として、北海道大学大学院医学研究院研究グループと北海道脳神経内科病院との共同研究が発表されました。



歩行動画から小脳性運動失調の重症度評価を行う AI の開発

～遠隔診療や新薬開発臨床試験での有効性評価などへの応用に期待～

ポイント

- ・ 脊髄小脳変性症患者の歩行から小脳性運動失調の重症度を予測する深層学習モデルの開発に成功。
- ・ 一般のビデオカメラで歩行を撮影するだけで、簡便に重症度の評価が可能。
- ・ 遠隔診療や新薬開発臨床試験での新たな有効性評価方法としての応用が期待。

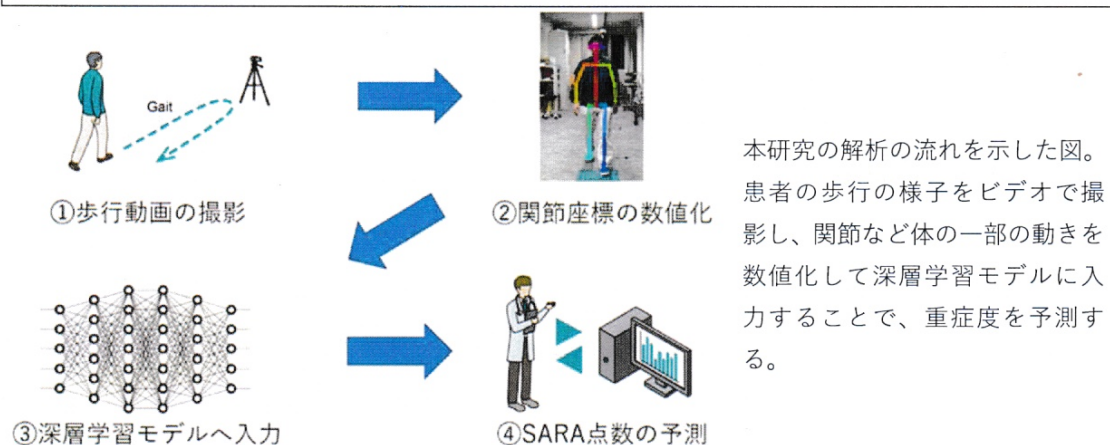
概要

北海道大学大学院医学研究院の江口克紀客員研究員、矢口裕章准教授、矢部一郎教授らの研究グループは、北海道脳神経内科病院（森若文雄院長、武井麻子副院長、濱田晋輔理事長ら）との共同研究において、深層学習モデルを利用して歩行動画から小脳性運動失調の重症度を予測する手法を開発しました。

脊髄小脳変性症（Spinocerebellar degeneration: SCD）^{*1}は小脳性運動失調を主症状とする神経変性疾患です。その治療やリハビリテーションの方針の決定には、小脳性運動失調がどの程度重い状態にあるか、重症度の評価が重要です。現在、SCD ではその重症度を推定するためのバイオマーカー^{*2}は十分に開発されておらず、重症度の評価は医師の診察に基づいて主観的に行われています。しかし、診察による重症度の評価は医師の経験や技量によりずれが生じることがあり、より客観的な重症度評価方法の開発が望まれていました。

今回、研究グループは、SCD 患者の歩行の様子を撮影したビデオに深層学習^{*3}モデルを適用し、現在主に用いられている小脳性運動失調の重症度評価スケールである Scale for the Assessment and Rating of Ataxia（SARA）^{*4}の点数の予測を行う手法を開発しました。この手法は特殊な検査機器や診察技術を必要とせず、ビデオカメラのみを用いて簡便に SCD 患者の重症度を評価することが可能です。この手法により、患者の通院負担及び医師の診療負担の軽減、遠隔診療や、新薬を開発するための臨床試験での新たな有効性評価方法への応用などが期待されます。

本研究成果は 2025 年 1 月 22 日（水）公開の Movement Disorders 誌にオンライン掲載されました。



（２）神経難病リハビリテーション部門

理学療法領域、作業療法領域、言語聴覚療法領域での活動を報告し、【研究業績】、【教育活動】、【社会活動】、【臨床研究助成】と【2024 年度医療用 HAL 実施実績】にわけて報告する。

【研究業績】

【原著論文 共著】

1. 菊地沙季、横山和樹：地域在住高齢者における成人期初期および現在の生活行為の実施状況とフレイルの関連、作業療法ジャーナル 58(9) 936-941, 2024
2. Ota K, Mani H, Nochimura K, Nakashiro Y, Hamada S, Moriwaka F : Five functional domains associated with gait performance in Parkinson's disease and trunk flexion. Front. Neurol., in press

【症例報告・その他】

1. 石坂美波、内海茉紀、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔：対麻痺を呈する経過 58 年目のスモン患者に対するリハビリテーション報告、令和 5 年度厚生労働行政推進事業費補助金 スモンに関する調査研究班研究報告会、2024
2. Harada Y, Iwabe T, Ota K, Hamada S, Moriwaka F. Effects of smile training on gait disturbance in Parkinson's disease patient with neuropsychiatric symptoms: A single case design, Phys Ther Res.;273:173-179, 2024
3. 熊谷隆人：脊髄小脳変性症、多系統萎縮症に対する言語療法、難病と在宅ケア 30（7）26-30, 2024

【学会発表、国内全国学会】

<2024 年度>

- 6 月 2 日（日）太田経介，萬井太規，中城雄一，本間早苗，濱田晋輔，森若文雄，塩崎智之：立位・歩行不安定性を呈する脊髄小脳変性症患者に対する前庭リハビリテーションの介入効果－ケーススタディ－，第 3 回日本前庭理学療法研究会学術集会（福岡）
- 6 月 2 日（日）太田経介，大塚裕之，後村圭太，坂野康介，中城雄一，濱田晋輔，森若文雄，塩崎智之：姿勢異常を呈するパーキンソン病患者の前庭機能障害と姿勢制御能力の関連性の検討，第 3 回日本前庭理学療法研究会学術集（福岡）
- 8 月 30 日-31 日（金、土）工藤育恵、坂本桜花、岩波真奈、藤田賢一、中城雄一、飯田有紀、森若文雄、濱田晋輔：パーキンソン病患者が長期的に在宅生活を送るため自主リハビリテーションに着目し

た一例、第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（神奈川）

9 月 28 日（土）坂野康介、武田賢太、野田貴暉、成田雅、太田経介、後村圭太、飯田有紀、志水宏太郎、河島則天：脊髄小脳変性症における立位姿勢と歩行動作の関係、第 22 回日本神経理学療法学会学術大会（福岡）

9 月 28 日（土）野田貴暉、武田賢太、坂野康介、成田雅、太田経介、後村圭太、飯田有紀、志水宏太郎、河島則天：脊髄小脳変性症患者の歩行特性－歩行計測データの分布をもとに抽出した典型症例の対比考察－、第 22 回日本神経理学療法学会学術大会（福岡）

9 月 28 日（土）成田雅、坂野康介、武田賢太、長谷川直哉、西祐樹、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔、岡田洋平：パーキンソン病患者の臨床場面と夜間の寝返り動作の差異の解明：24 時間 モニタリングによる観察研究、第 22 回日本神経理学療法学会学術大会（福岡）

9 月 28 日（火）太田経介、武田賢太、中城雄一、江口克紀、濱田晋輔、森若文雄：脊髄小脳失調症 36 型症例における立位姿勢制御障害に対する介入戦略、第 22 回日本神経理学療法学会学術大会（福岡）

<2025 年度>

1 月 31 日（金）石坂美波、萩原大悟、中城雄一、森若文雄、濱田晋輔：医療用 HAL 治療を実施したスモン患者のリハビリテーション経過報告、令和 6 年度厚生労働行政推進事業費補助金 スモンに関する調査研究班 研究報告会（東京）、2025.1.31

【学会発表、国内地方会】

<2024 年度>

6 月 22 日・23 日（土、日）馬道健弘、中城雄一、森若文雄：作業療法士の専門性を活かした授業～公開授業の一日講師を経験して～ 第 54 回北海道作業療法学会学術大会

【研究会】

<2024 年度>

7 月 11 日～13 日（木～土）馬道健弘：標準的作業療法プログラム、第 18 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres PD 遠隔リハビリテーション研究会

<2025 年度>

2 月 13 日（木）太田経介：「起立性低血圧に下部排尿機能障害を合併したパーキンソン病者に対する介入方針の立案」，第 33 回北海道神経難病ケースカンファレンス，オンライン

【講演】

<2024 年度>

5 月 30 日（木）太田経介：パーキンソン病の姿勢異常とリハビリテーション，北斗わかば病院院内研修，

9 月 12 日（木）瀧上聖：「生活から見つけるパーキンソン病の嚥下障害のポイント～早期発見・介入のために～」，パーキンソン病地域医療連携セミナー2024，オンライン

9 月 12 日（木）香川紗嬉：「パーキンソン病患者の高次脳機能障害から診た、生活の困り事」、パーキンソン病地域医療連携セミナー2024，オンライン

10 月 18 日（金）藤田賢一：、クリニカル・クエスチョン（非言語性口腔運動、実用性）の解説、第 69 回日本音声言語医学会総会・学術講演会、東京

11 月 2 日（土）奥滝優太：北海道訪問リハビリテーション実務者研修会，神経難病の訪問リハビリの実際～在宅指導で気にかけているポイント～

11 月 23 日（土）鹿野咲：第 251 回技術講習会 神経難病に対する制度活用と生活支援，北海道理学療法士会、北海道医療大学

<2025 年度>

1 月 18 日（土）太田経介：脊髄小脳変性症における姿勢制御障害一病態に基づく介入指針の立案ー第 6 回道南理学療法士学術研修大会（函館），2025.1.18.

1 月 25 日（土）後村圭太：2024 年度第 4 回札幌難病医療相談会 視神経脊髄炎スペクトラム障害について、視神経脊髄炎スペクトラム障害におけるリハビリテーションの多様性、北海道難病センター

3 月 16 日（日）鹿野咲：MDSJ 第 13 回 PD ナース・メディカルスタッフ研修会 ランチョンセミナー リハビリテーション 北海道大学

【講義】

<2024 年度>

6 月 26 日（水）本間冬真：作業療法概論Ⅲ 作業遂行能力の評価，札幌リハビリテーション専門学校

7 月 4 日（木）太田経介：筋萎縮性側索硬化症における理学療法の基本戦略，北海道文教大学，

7月11日（木）太田経介：パーキンソン病における理学療法の基本戦略，北海道文教大学

7月25日（木）太田経介：運動失調および免疫性神経疾患における理学療法の基本戦略，北海道文教大学

9月4日（水）鹿野咲：地域で暮らすを“支える”人たちの視点と考え方，日本医療大学

10月1日（火）3日（木）坂野康介、後村圭太：神経障害理学療法学，北海道リハビリテーション大学校

10月-12月坂野康介：多発性硬化症の理学療法，2024年度認定理学療法士（神経筋障害）臨床認定カリキュラム，日本理学療法士協会・国立精神神経医療研究センター，（web オンデマンド）

<2025 年度>

1月31日（金）鹿野咲：神経難病とリハビリテーション，札幌リハビリテーション専門学校

【社会活動】

1. 太田経介：一般社団法人 日本神経理学療法学会 北海道地方会役員，2023～
2. 太田経介：一般社団法人 日本神経理学療法学会 タスクフォース（パーキンソン病班），2023～
3. 成田 雅：一般社団法人 日本神経理学療法学会 タスクフォース（パーキンソン病班），2023～
4. 太田経介：STV ラジオ「工藤じゅんきの十人十色」出演，2024. 4
5. 太田経介：第31回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス準備委員，2024. 7. 21
6. 鹿野 咲：北海道難病検診、利尻・礼文 2024. 9. 11. ～9. 13
7. 太田経介：認定理学療法神経分野問題作成部会 部会員 2025 年～

【臨床研究助成】

2025 年 3 月 27 日、公益財団法人日本フィランソロビック財団第2回パーキンソン病 QOL 基金に申請した「北海道のパーキンソン病リハビリテーションに関する地域特性調査」事業への助成決定

【2024 年度医療用 HAL 実施実績】

北海道脳神経内科病院

疾患名	延べ人数
シャルコー・マリー・トゥース病	4
ALS	2
球脊髄性筋萎縮症	6
筋強直性ジストロフィー	2
進行性黄筋ジストロフィー	1
ネマリンミオパチー	1
遺伝性痙性対麻痺	1
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2
脊髄小脳変性症	3
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1
ギラン・バレー症候群	1
合計	23名

札幌パーキンソン MS 神経内科クリニック

疾患名	延べ人数
球脊髄性筋萎縮症	2
ネマリンミオパチー	2
筋強直性ジストロフィー	1
遺伝性痙性対麻痺	1
封入体筋炎	1
スモン	1
合計	8名

(3) 神経難病看護・ケア部門

院外・院内研究会参加、看護部教育を報告する。

1. 研究会参加状況

【院外研修】

日 時	研修テーマ	主 催	参加者
2024 年 11 月 27 日	2024 年度 看護の専門性の発揮に資する タスク・シフト/シェア全国セミナーのご案内	日本看護協会	2 名

【院内研修】

日 時	研修テーマ	講 師	主 催	参加数 (看護職/全体)
2024 年 6 月 27 日	医療研修とマナー研修①	医事課：矢野千里	医療安全管理委員会	
2024 年 9 月 26 日	医療人としての接遇マナー②	医事課：矢野千里	医療安全管理委員会	
2024 年 12 月 18 日	医療現場で求められる接遇マナー③	医事課：矢野千里	医療安全管理委員会	
2025 年 3 月 27 日	様々な場面での接遇マナー	医事課：矢野千里	医療安全管理委員会	
2024 年 9 月 17 日 2025 年 1 月 21 日 1 月 30 日 3 月 3 日 3 月 18 日	ハラスメント講習会	ハラスメント委員	ハラスメント委員会	
2025 年 2 月 3 日～ 2 月 9 日	感染対策は手洗いか ら	感染制御チーム委 員	感染制御チーム	全員

2. 【看護部教育】

日 時	研修テーマ	参加者	担 当
2024 年 7 月 3 日	人口呼吸器の基本的な知識	7 名	教育委員
2024 年 11 月 28 日	救急看護研修 一次救命処置 二次救命処置	5 名	教育委員

日 時	学研 e—ラーニング 研修テーマ	参加者
2024 年 4 月～7 月	重症度、医療・看護必要度（入門編） 重症度、医療・看護必要度の評価の手引きを理解する 重症度。医療・看護必要度の評価のポイントと活かし方（一般急性期病棟編）	看護職全員
2024 年 8 月	患者が見える、ケアが伝わる看護記録	看護職全員
2024 年 4 月～8 月	① 看護職と看護補助者との協働推進の背景	看護職全員
	② 看護補助者の位置づけ	
	③ 看護補助者との協働における看護業務の基本的な考え方	
	④ 看護補助者との協働における業務実施体制	
	⑤ 看護師による看護補助者への指示について	
	⑥ 知っておきたい看護補助者への適切な業務指示を行うための留意事項	
	⑦ 看護補助者と協働するための情報共有とコミュニケーション	
2024 年 4 月～10 月	① 医療制度の概要および病院の機能と組織の理解	看護助手全員
	② チームの一員としての看護補助者業務の理解	
	③ 守秘義務、個人情報保護の基礎知識	
	④ 労働安全衛生の基礎知識	
	⑤ 接遇・マナーの基礎～患者・家族へのかかわり方	
	⑥ 倫理の基本～医療機関において求められる倫理的な行動～	
	⑦ 環境整備～ベッドメイク・リネン交換など～	
	⑧ 入浴のお世話	
	⑨ 清拭のお世話～清拭、洗髪～	
	⑩ 排泄のお世話～排尿・排便のお世話、オムツ交換など	

	⑪ 食事のお世話	
	⑫ 洗面のお世話	
	⑬ 口腔ケア	
	⑭ 移動のお世話	
	⑮ 診療にかかわる補助業務の基本	
	⑯ 医療安全	
	⑰ 感染予防	
	⑱ 認知症患者の対応	
	⑲ 療養生活上の世話にかかわる業務マニュアル	
	⑳ 看護補助者が知っておきたい実践医療用語	
2024 年 8 月	記録委員企画「患者が見える、ケアが伝わる看護記録」	看護職全員

3. 【対外活動】

【実習受け入れ】

年 月 日	学校名 実習内容	受入数
2024 年 8 月 26 日～9 月 13 日	札幌保健医療大学 3 年 高齢者看護	6 名
2024 年 9 月 17 日～10 月 4 日	札幌保健医療大学 3 年 高齢者看護	6 名
2024 年 10 月 22 日～23 日	天使大学 1 年 基礎看護学臨地実習 I	4 名
2024 年 10 月 29 日～30 日	天使大学 1 年 基礎看護学臨地実習 I	4 名

（４）神経難病医療相談・福祉支援部門

【年間事業計画】

1. 医療機関連携

他医療機関との連携が円滑に行えるように、当院や当部署の役割分担を院外に周知するという目的と、医療機関の情報収集と連携強化を行う目的で医療機関との交流を継続して行っている。双方の訪問により電話だけではなく、対面することでより細やかな情報共有が行えたと考える。訪問を実施できなかった医療機関等については、文書や電話等の手段をとり、当院・当部署の役割について周知を行い、患者様に関する情報収集は継続して行うことができた。今後も、医療機関訪問活動を継続できるよう努める。

2. サロン活動

2024年度は、準備が整わず実施することが出来なかった。これまでに頂いたご意見なども含めて、今後再開できるよう準備に努める。

3. 院内研修・研究活動

2024年度も、準備が整わず実施することが出来なかった。研修内容に関しては、職員が望む内容を検討し企画を検討したいと考えている。また、研究についても計画的に進められるよう努める。

4. 地域社会福祉活動

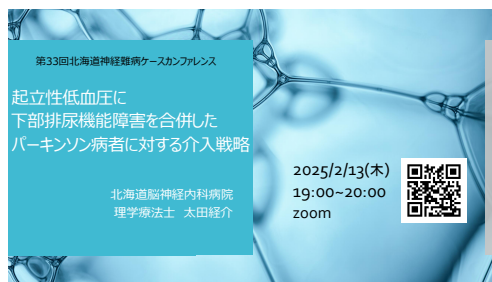
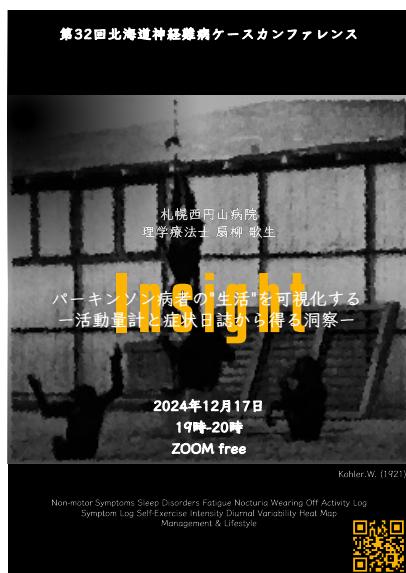
2024年度は体制が整わず難病検診への参加は見送らせて頂いた。学会や研修会参加状況は例年と変わらず、自己研鑽に励むことができた。

2024年度は、通常業務に加え入院患者の面会再開に伴う対応などの追加業務が多く、自部署の年間事業計画を遂行するための計画修正が円滑に行えなかった。次年度以降は遂行できるよう柔軟性のある企画に努めたい。

4. 北海道神経難病研究センター主催講演会

【北海道神経難病リハビリテーションケースカンファレンス】

1. 第32回 2024年12月17日 Web開催 参加者数：89名
「パーキンソン病患者の“生活”を可視化する活動量計と症状日誌から得る洞察」
発表者：扇柳歌生氏 西円山病院
2. 第33回 2025年2月13日 Web開催 参加者数：107名
「起立性低血圧に下部排尿機能障害を合併したパーキンソン病者に対する介入戦略」
発表者：太田経介氏 北海道脳神経内科病院
3. 第34回 2025年3月13日 Web開催 参加者数：80名
「抑うつ症状を呈したパーキンソン病患者に対する認知行動療法の適応の考察」
発表者：吉田純平氏 北斗わかば病院



【神経難病セラピストのための座談会】

1. 第 52 回 2024 年 5 月 21 日 現地開催 参加者数：11 名
テーマ「PYK（パーキンソン病予知トレーニング）をやってみよう」
～パーキンソン病患者さんの写真や動画を見て気になる点や危険と感じたところを出しあって考えてみよう！～
2. 第 53 回 2024 年 7 月 23 日 現地開催 参加者数：15 名
テーマ「パーキンソン病予知トレーニングをやってみよう 外出編」
3. 第 54 回 2024 年 9 月 17 日 現地開催 参加者数：10 名
テーマ「パーキンソン病予知トレーニングをやってみよう エスコンフィールドへ行こう編」
4. 第 55 回 2024 年 11 月 19 日 現地開催 参加者数：10 名
テーマ「パーキンソン病トラベルプランニングトレーニングをやってみよう 温泉編」
5. 第 56 回 2025 年 2 月 18 日 現地開催 参加者数：10 名
テーマ「パーキンソン病予知トレーニング ～飛行機に乗って出かけよう～」

第52回神経難病セラピストの座談会

「PYT(パーキンソン病予知トレーニング)をやってみよう」

パーキンソン病患者さんの写真や動画をみて
気になる点や危険だと感じた所を出しあって考えてみよう！

今年度から『会場参加』のみの開催です。
会場：北海道脳神経内科病院 4階リハビリテーション室

2024年5月21日(火)
18:30～19:20
申込〆切り:2024年5月20日(月)

神経難病のリハビリテーションを頑張っているセラピストの皆さんが、今悩んでいることや困っていることなど気軽に話せる場です。顔の見える関係を作りましょう！
今回は、パーキンソン病患者さんの写真や動画から、みえてくる課題や気になる点を皆さんで出し合っ、グループワークをしてみよう。

参加申し込みは右にある2次元コード、もしくは下記URLよりご登録可能です。会場参加希望の方も含めた参加希望の皆様全員に、URL(zoom)を登録頂いたメールアドレスにお送りさせていただきます。

申し込み用URL: <https://00m.ln/LHhYe>

主催：（一財）北海道神経難病研究センター 北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬場
E-mail: zadan-kanji@hokkaido-find.jp

第53回神経難病セラピストの座談会

「パーキンソン病予知トレーニングをやってみよう 外出編」

日常生活につながるリハビリしてませんか？
気になる点を出しあって日々の臨床に活かそう！

今年度から『会場参加』のみの開催です。
会場：北海道脳神経内科病院 4階リハビリテーション室

2024年7月23日(火)
18:30～19:30
申込〆切り:2024年7月22日(月)

セラピストの皆さんが今悩んでいることや困っていることなど、気軽に話せる場づくりを目指しています。
今回は、私たちがパーキンソン病予知トレーニングという言葉を作りました。患者さんが遠隔で買い物へ行くことを想定して、写真から気になることや支援できることをグループで話しましょう。

参加申し込みは右にある2次元コード、もしくは下記URLよりご登録可能です。会場参加希望の方も含めた参加希望の皆様全員に、URL(zoom)を登録頂いたメールアドレスにお送りさせていただきます。

申し込み用URL: <https://00m.ln/oKqah>

主催：（一財）北海道神経難病研究センター 北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬場
E-mail: zadan-kanji@hokkaido-find.jp

第54回神経難病セラピストの座談会

「パーキンソン病予知トレーニングをやってみよう」

エスコンフィールドへ行こう編

日常生活につながるリハビリしてませんか？
気になる点を出しあって日々の臨床に活かそう！

今年度から『会場参加』のみの開催です。
会場：北海道脳神経内科病院 4階リハビリテーション室

2024年9月17日(火)
18:30～19:30
申込〆切り:2024年9月16日(月)

セラピストの皆さんが今悩んでいることや困っていることなど、気軽に話せる場づくりを目指しています。
今回は、私たちがパーキンソン病予知トレーニングという言葉を作りました。患者さんがエスコンフィールドへ野球観戦へ出かけることを想定して、皆さんでアドバイスできることをグループで話しましょう。

参加申し込みは右にある2次元コード、もしくは下記URLよりご登録可能です。会場参加希望の方も含めた参加希望の皆様全員に、URL(zoom)を登録頂いたメールアドレスにお送りさせていただきます。

申し込み用URL: <https://00m.ln/r1TAa>

主催：（一財）北海道神経難病研究センター 北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬場
E-mail: zadan-kanji@hokkaido-find.jp

第55回神経難病セラピストの座談会

「パーキンソン病トラベルプランニングトレーニングをやってみよう」

温泉旅行編

日常生活につながるリハビリしてませんか？
気になる点を出しあって日々の臨床に活かそう！

今年度から『会場参加』のみの開催です。
会場：北海道脳神経内科病院 4階リハビリテーション室

2024年11月19日(火)
18:30～19:30
申込〆切り:2024年11月18日(月)

セラピストの皆さんが今悩んでいることや困っていることなど、気軽に話せる場づくりを目指しています。
患者さんから「温泉に行きたいけどどうしたら良いのか」と相談された時、移動手段、入浴、食事、観光など、私たちはどんなアドバイスができるのか旅行プランを考えながらグループで話しましょう。

参加申し込みは右にある2次元コード、もしくは下記URLよりご登録可能です。会場参加希望の方も含めた参加希望の皆様全員に、URL(zoom)を登録頂いたメールアドレスにお送りさせていただきます。

申し込み用URL: <https://00m.ln/kApjW>

主催：（一財）北海道神経難病研究センター 北海道神経難病リハビリテーション研究会
お問い合わせ：座談会幹事 馬場
E-mail: zadan-kanji@hokkaido-find.jp

第56回神経難病セラピストの座談会

パーキンソン病予知トレーニング

～飛行機に乗って出かけよう～

患者さんから飛行機で出かけたいと相談された時、どのようなアドバイスができるでしょうか。空港までの移動や空港での過ごし方など、患者さんのお困りごとに合わせて対応できるように、グループに分かれてみんなで話し合います。

(今回は対面でのみの開催です)

座談会 2/18 18:30～19:50
申込締切 2/17

場所 北海道脳神経内科病院
4階リハビリテーション室

参加費 無料

申込はこちらから
申込用URL: <https://00m.ln/PCDvx>
お問い合わせ：座談会幹事 馬場
E-mail: zadan-kanji@hokkaido-find.jp

